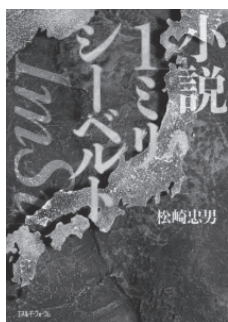




小説 1 ミリシーベルト

著：松崎 忠男



「小説 1 ミリシーベルト」は、*Isotope News* の読者であれば誰でも思い描く公衆の被ばく線量限度を題材としたノンフィクション小説です。この小説は第5回エネルギーフォーラム小説賞を受賞しています。エネルギーフォーラム小説賞は、エネルギーや環境（エコ）、科学をテーマと

して創設された(株)エネルギーフォーラムが主催する新人文学賞です。主催者の募集案内は、「3.11の東日本大震災以降、やむことのない“エネルギー政策についての議論”すべての日本人が“エネルギー”“環境”“科学”の未来について自分なりの意見を持っているのが、今の日本の現状です。あなたの想いを“小説”にしてぶつけてください。」と書いています。

主人公である大志田信吾は、筑波研究学園都市に所在する経済産業省傘下の独立行政法人産業技術研究所放射線研究室長です。2011（平成23）年3月11日、研究所執務室で大きな地震に遭遇します。つくば市の震度は6弱、震源地に近い東北地方では更に大きな震度が記録され、福島第一原子力発電所に緊急事態宣言が発令、半径3km以内に避難指示が出されます。しかし、「原発は、この程度の地震ではびくともしない、ここまで避難する必要はない。」と信じていました。ところが、福島第一原発の一号機、三号機が爆発、放出された放射性物質が茨城県つくば市にも到達し、地震の影響で研究員の出勤も困難な中、出勤できた研究員で放射能分析をし、その結果を公表します。また、放射線の専門家として農業団体、地域住民、マスコミ等多くの人たちへの事態の説明に奔走することとなります。

そのような多忙な中、大志田は内閣府食品安全委員会の委員として、放射能汚染された食品が販売されないよう出荷制限をする規制値を決めるための食品安全委員会に出席することとなります。事態は緊急を要するため、1週間程度で答えを出すという集中審議で行われます。委員会には大学時代に大志田と同じ研究室に所属していた原発反対運動に没頭していた猪俣も参考人として参加しており、今までの国の委員会とは異

なる雰囲気でも議論が進められます。委員会開催中にICRPが日本向けに「福島原子力発電所事故」という声明文を発表します。ICRPの委員でもある大志田は「ICRP声明にあるように、最適化を適用し、放射線防護だけではなく他のリスクを含めて総合的に判断する必要がある。今のような緊急事態では、平常時の限度値である1ミリシーベルトにこだわる必要はありません。」と力説するものの「ダブルスタンダードになる。」「本来の規制値が守れないから緩和するというご都合主義ではないか。」等の従来の基準値を堅持する意見もあり、結論は最初から見えていたのではないかとと思われるように、暫定基準値を追認するという結論になります。

大志田は、その後もテレビ等のマスコミに登場し、ALARAの精神を説明しますが、なかなか受け入れてもらえません。反対に「被ばくを恐れるあまり、それを避けようとして逆に大きな犠牲を払うことが心配です。避難生活から受ける精神的、肉体的負担は、この程度の放射線リスクとは比べものになりません。」と発言し、「放射線を浴びてもよいと言っているのか。」と猛反発を買います。

一方、文部科学省は校庭利用に関し、大志田の意見も参考に、年間20ミリシーベルトを目安として求められた「毎時3.8マイクロシーベルトの空間線量率を基準とする。」との通知を発令します。しかし、そのような中で大志田は文部科学省の参与を解任されます。そして、参議院文教科学委員会に猪俣と共に参考人として出席することとなります。

読者の中には、事故当時に放射線管理を担当しており、日常の管理はバックグラウンドの2倍程度（約100cpm）で管理をしていたものが、スクリーニングレベルが10,000cpm以上と聞いて驚き、また、管理区域からの放射性物質の放出を厳密に管理していたにもかかわらず、管理区域の外でサーベイメータの針が大きく触れるのに愕然とした経験を持っている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。にわか放射線専門家と思われる方々の過激な言動が多くマスコミに実しやかに取り上げられ、放射線専門家として様々な場面で説明する際にご苦労された方もいらっしゃるのではないかと思います。

この本の帯には、「元文部科学省技官が福島第一原発事故での実体験をベースに研究者の葛藤を活写した放射能問題と除染」と書かれています。この本を読み進めると、登場人物のモデルであろうと思われる人物の顔、言動が浮かんできます。この本は、放射線を生業とする私たちに、あの原発事故が問いかけたものは何であったのかをもう一度振り返る機会になるのではないかと思います。

（二ツ川章二 アルファ・タウ・メディカル(株)）

（ISBN:978-4-88555-489-6, B6判, 364頁, 定価1,980円（本体1,800円+税10%）, エネルギーフォーラム, <https://energy-forum.co.jp>, 2018年）